

過古

梶井基次郎

青空文庫

母親がランプを消して出て来るのを、子供達は父親や祖母と共に、戸外で待っていた。

誰一人の見送りとてない出発であつた。最後の夕餉ゆうげをしたためた食器。最後の時間まで照していたランプ。それらは、それらをもらつた八百屋やおやが取りに来る明日の朝まで、空家の中に残されている。

灯が消えた。くらやみを背負つて母親が出て来た。五人の幼い子供達。父母。祖母。——賑にぎやかな、しかし寂しい一行は歩み出した。その時から十余年経つた。

その五人の兄弟のなかの一人であつた彼は再びその大都会へ出て来た。そこで彼は学校へ通つた。知らない町ばかりであつた。ごかいしよ碁会所。玉突屋。大弓所。珈琲店。コーヒー下宿。彼はそのせせこましい展望を逃れて郊外へ移つた。そこは偶然にも以前住んだことのある町に近かつた。霜解け、夕凍み、その匂いには憶えがあつた。

ひと月ふた月経つた。日光と散歩に恵まれた彼の生活は、いつの間にか怪しい不協和に陥つていた。遠くの父母や兄弟の顔が、これまでになく忌わしい陰を帯びて、彼の心を紊した。みだ電報配達夫が恐ろしかつた。

ある朝、彼は日ひあたり当のいい彼の部屋で座布団を干していた。そ

の座布団は彼の幼時からの記憶につながれていた。同じ切れ地で夜具ができていたのだった。——日なたの匂いを立てながら縞目しまめの古りた座布団は膨れはじめた。彼は眼を瞠みはつた。どうしたのだ。まるで覚えがない。何という縞目だ。——そして何という旅情：

：

以前住んだ町を歩いて見る日がとうとうやって来た。彼は道々、町の名前が変わってはいないかと心配しながら、ひとに道を尋ねた。町はあった。近づくにつれて心が重くなつた。一軒二軒、昔と変わらない家が、新しい家に挟まれて残っていた。はつと胸を衝つかれる瞬間があった。しかしその家は違っていた。確かに町は

その町に違いなかった。幼な友達の家が一軒あつた。代が変わつて友達の名前になつていた。台所から首を出している母らしいひとの眼を彼は避けた。その家が見つければ道は憶おぼえていた。彼はその方へ歩き出した。

彼は往来に立ち竦すくんだ。十三年前の自分が往来を走っている！——その子供は何も知らないで、町角を曲つて見えなくなつてしまった。彼は泪なみだぐんだ。何という旅情だ！それはもう嗚咽おえつに近かつた。

ある夜、彼は散歩に出た。そしていつの間にか知らない路を踏み迷つていた。それは道も灯もない大きな暗闇であつた。探りな

がら歩いてゆく足が時どき凹^{へこ}みへ踏み落ちた。それは泣きたくなる瞬間であつた。そして寒さは衣服に染^{しみ}み入つてしまつていた。

時刻は非常に晩^{おそ}くなつたようでもあり、またそんなでもないように思えた。路をどこから間違つたのかもはつきりしなかつた。頭はまるで空虚であつた。ただ、寒さだけを覚えた。

彼は燐^{マツチ}寸の箱を袂^{たもと}から取り出そうとした。腕組みしている手はそのまま、右の手を左の袂へ、左の手を右の袂へ突込んだ。燐寸はあつた。手では掴^{つか}んでいた。しかしどちらの手で掴んでいるのか、そしてそれをどう取出すのか分らなかつた。

暗闇に点^{とも}された火は、また彼の空虚な頭の中に点された火でもあつた。彼は人心地を知つた。

一本の燐寸の火が、焰ほのおが消えて炭火になつてからでも、闇に對してどれだけの照力を持つていたか、彼ははじめて知つた。火が全く消えても、少しの間は残像が彼を導いた――

突然烈しい音響が野の端から起こつた。

華ばなしい光の列が彼の眼の前を過よぎつて行つた。光の波は土を匍はつて彼の足もとまで押し寄せた。

汽罐車の烟けむりは火になつていた。反射をうけた火夫が赤く動いていた。

客車。食堂車。寝台車。光と熱と歓語で充たされた列車。

激しい車輪の響きが彼の身体に戰せんりつ慄を伝えた。それははじめ荒々しく彼をやつつけたが、遂には得体の知れない感情を呼び起

こした。涙が流れ出た。

響きは遂に消えてしまった。そのままの普段着で両親の家へ、急行に乗って、と彼は涙の中に決心していた。

青空文庫情報

底本：「檸檬・ある心の風景 他二十編」旺文社文庫、旺文社

1972（昭和47）年12月10日初版発行

1974（昭和49）年第4刷発行

初出：「青空」青空社

1926（大正15）年1月号

※表題は底本では、「過去《かこ》」となっています。

※編集部による傍注は省略しました。

入力：j.utiya

校正：野口英司

1998年9月19日公開

2016年7月5日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

過古

梶井基次郎

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>